

# 歴史を 探る

第144回

五條市内の古墳 (その3)

近内古墳群の大型・中型古墳の造営は5世紀末で終了しましたが、北宇智地域では6世紀にも小型の古墳の築造が続きます。

向山丘陵の北端、猫塚古墳の周辺では、6世紀代に堂城山古墳、向山1・2・4号墳が順次造られました。また向山丘陵から北西に離れた独立丘陵上では、5世紀末から6世紀代の西河内吉山1・3号墳が発見されています。現在、北宇智小学校がある引ノ山丘陵でも、5世紀後半から6世紀後半にかけて14基の古墳が造られました。

これらは、いずれも直径・一辺が15m未満の円墳・方墳で、埋葬施設は木棺を直接埋める方式がほとんどです(引ノ山第2号墳は土師器甕棺、同第13号墳は横穴式石室)。副葬品も、乱掘などで完全にはそろっていませんが、若干の鉄製の武器(刀・鉄鏃)・農具以外は土器が主です。その点で、向山4号墳の豊富な玉類は目を引きます。

これらの古墳が単独で存在する、あるいは複数であっても数基、十数基にとどまることも特徴です。同じころ、葛城地域をはじめ奈良盆地の縁辺部では、主に横穴式石室を有する小円墳が多いところで数百基も密集する群集墳が丘陵や山間に営まれています。

北宇智地域の小古墳を築いたのは5世紀代の近内古墳群造営集団の縁者と考えられますが、勢力の縮小は明らかです。5世紀に豪族の葛城氏が拠点とした風の森峠北方の南郷遺跡群も6世紀には衰退し、一方で巨勢氏の本拠地である巨勢谷周辺の古墳の造営が盛んになります。奈良盆地の豪族の動向によって、風の森峠越えの道よりも巨勢谷から飛鳥へ向かう重阪峠越えの紀路の重要度が増し、大和と紀伊の往来・物流のメインルートが変わったことも背景にあるのかもしれない。(続く)

文化財課学芸員 前坂尚志  
文化財課 ☎ 24・2011



向山4号墳で出土した装身具の玉類 (奈良県立橿原考古学研究所編『向山遺跡』2008年より)

## 令和2年度秋季企画展 五條の古墳を掘る

時 ~12月13日(日)9時~17時  
※11月23日を除く月曜日と11月4日(水)、24日(火)は休館

所 五條文化博物館  
¥ ▼一般:300円 ▼高校・大学生:200円 ▼中学生以下:無料  
問 五條文化博物館 ☎ 24-2011



今井1号墳で出土した銅鏡 (所蔵:奈良県立橿原考古学研究所)

## 11月 図書館だより

問 市立図書館(水曜休館)  
☎ 22-4133



図書館ブログ



蔵書検索

### イベントのおしらせ 本の貸出福袋

読書週間にともない、本の貸出福袋を行います。福袋にはスタッフおすすめの本が2冊入っています。  
時 11月7日(土)9時~  
※なくなり次第終了

## 新刊本棚

### おとなの本

裏を見て「おいしい」を買う習慣



岩城 紀子 / 著  
主婦の友社

買うときには裏を見て、口に入れるものの中身を知ってほしい。安心安全な美食のセレクトショップ「グランドフードホール」経営者が、おいしいもので健康になる方法、「おいしい」を発掘して表舞台に出す仕事などを語る。

半沢直樹  
アルルカンと道化師



池井戸 潤 / 著  
講談社

### こどもの本

ネコノテパンヤ



高木 さんご / 作  
ひさかたチャイルド  
小さなパン屋さん「ネコノテパンヤ」で、お店番をしていたななえ。「カラーンコローン」と店の戸が開くと、霧といっしょに不思議なお客さんがあらわれて…

サンドイッチにはさまれたいやつっていい



岡田 よしたか / 著  
佼成出版社

## うとのの館から 見取り図案内其の百四拾貳 登録有形文化財「藤岡家住宅見取り図案内」

藤原豊成は、通称、横佩大臣(横佩とは太刀)とも、難波大臣とも呼ばれていました。横佩大臣の名は、豊成の武勇を表し、難波大臣の名は、難波宮との強い関わりを表しています。  
難波宮は『日本書紀』朱鳥元年(686年)正月に「全焼した」と記されています。その40年後の神亀3年(726年)10月26日、聖武天皇が豊成の叔父(武智麻呂の弟)藤原宇合を知造難波宮事(難波宮造営の長官)に任命して、後期難波宮を再建しました。  
宇合は、それまでに遣唐副使として唐に渡った経験があり、その船は後に活躍する阿倍仲麻呂や、吉備真備、玄昉らも乗船していたため、遣唐使船が発着し、外交の窓口であった難波津(港)を抱える難波宮を管理するには適切な人物と考えられたのでしよう。  
ところが、天平9年(737年)宇合は、武智麻呂と同時期に天然痘で亡くなってしまいます。天然痘の猛威は、藤原4兄弟ばかりでなく多くの官僚の命も奪い、その結果、豊成は難波宮に携わることになったと思われる。

榮山寺のある宇智(五條)や、邸宅のある平城京と、難波宮との往来には、竹内街道を利用しました。  
竹内街道は『日本書紀』の推古天皇21年(613年)の条に「難波より京(飛鳥)に至る大道を拓く」と記され、葛城市の長尾神社から、二上山麓の南側を通り、難波につながる官道です。難波に到着した遣唐使や、同行してくる大陸からの使者たち、外国から渡来した文物などを都へ運ぶために整備された道でした。  
竹内街道と、奈良盆地を東西に横切る横大路が交差する場所に建てられていたのが當麻寺です。豊成の妻の一人百能は、女官として内侍守まで上った人で、當麻氏の家系でした。  
他にも豊成と當麻氏との関係は深く、娘の中將姫を當麻寺に預けています。峠のふもとに位置する寺は、難波への行き帰りの際にも立ち寄り易い場所でした。  
館長 川村 優理

【展示案内】  
「葛城修験」〜里人ともに守り伝える修験道はじまりの地〜  
時 12月22日(火)まで